



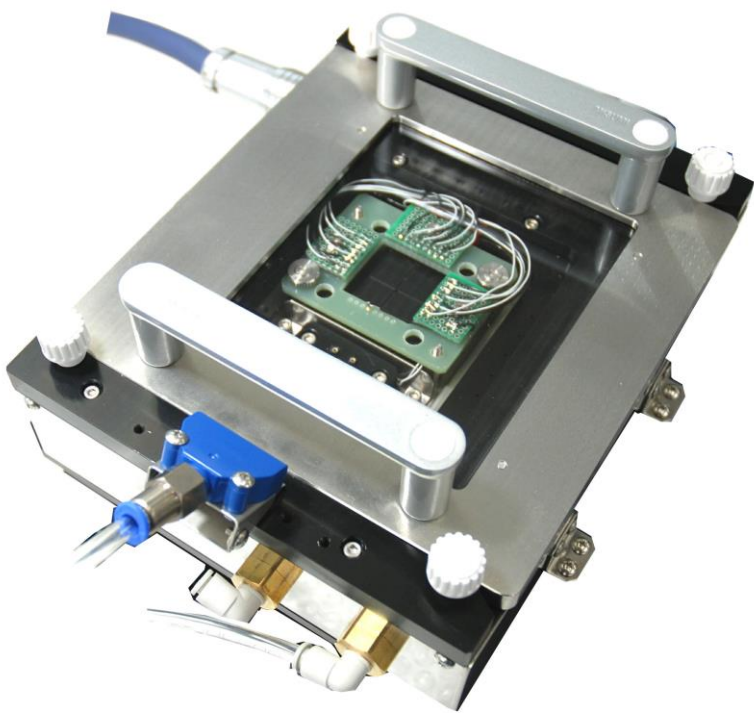
超小型温度チャンバー

2020年度版

株式会社 MSAファクトリー

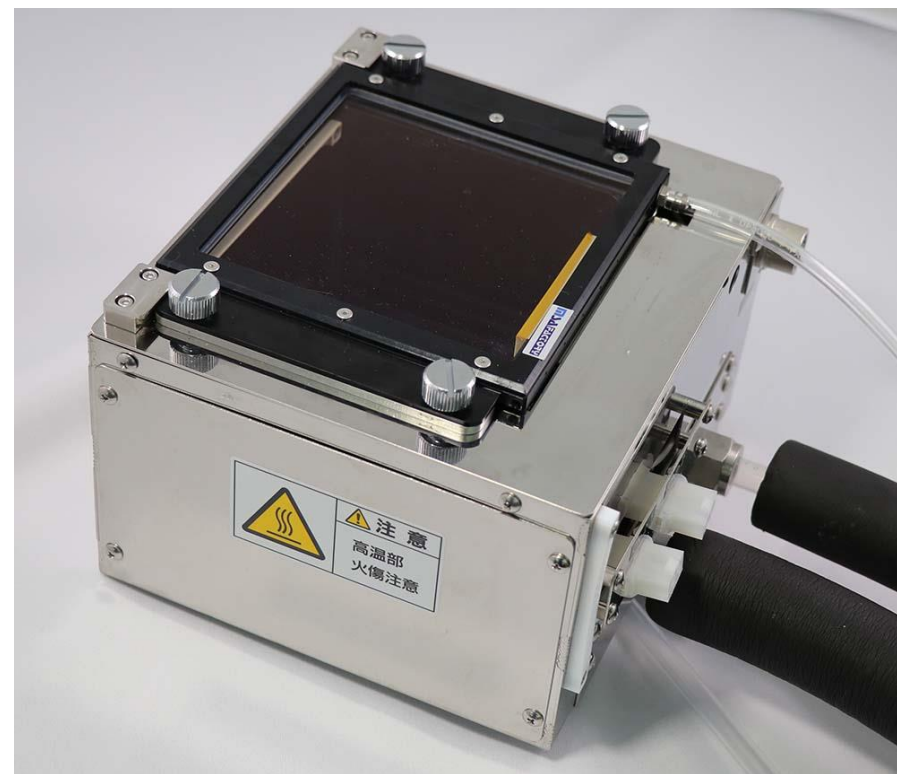


PGシリーズとPGFシリーズの各特長



PG1506

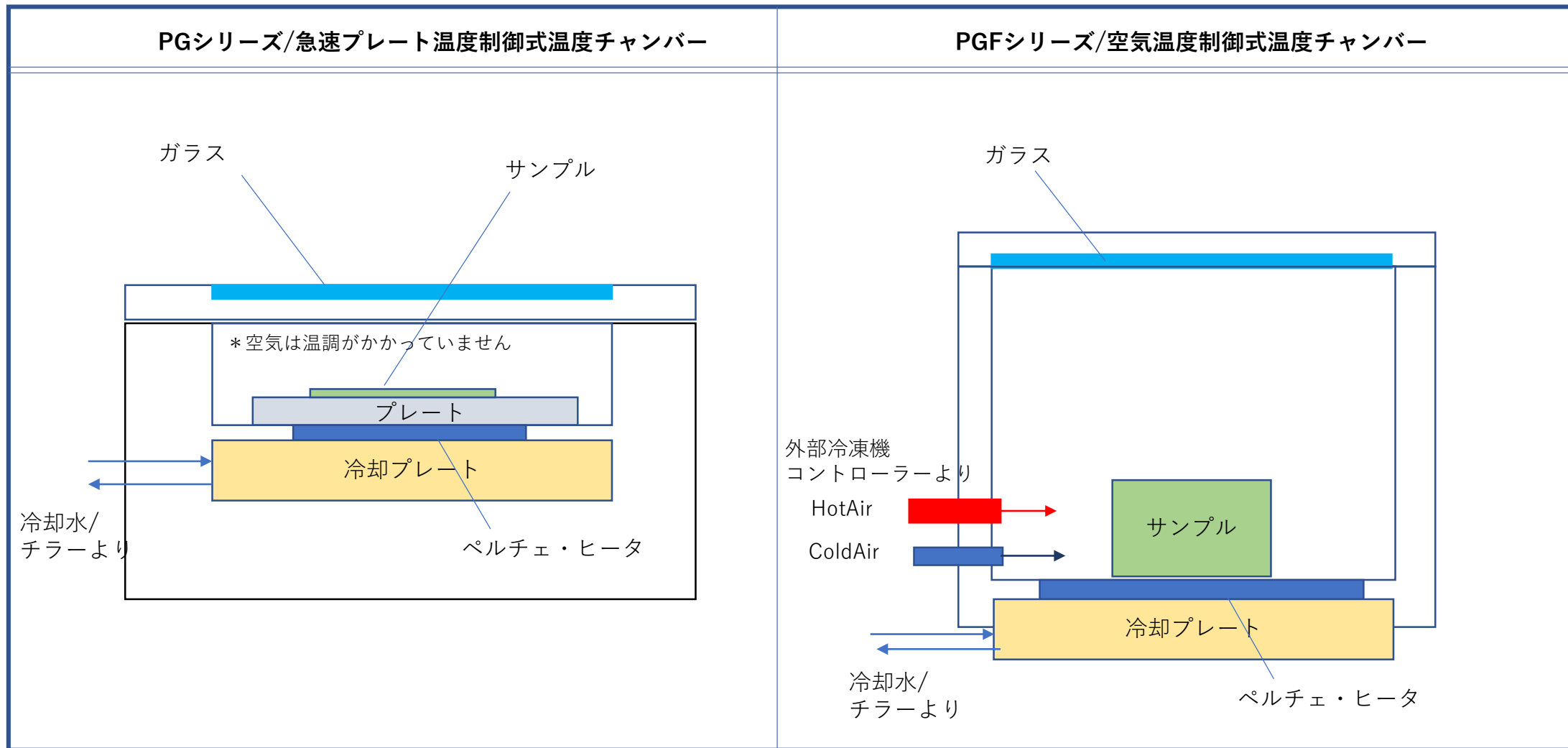
急速プレート温度制御式温度チャンバー



PGF3010

空気温度制御式温度チャンバー

PG/PGF チャンバー構造比較





PG/PFG 比較表

	PGシリーズ/急速プレート温度制御式温度チャンバー	PGFシリーズ/空気温度制御式温度チャンバー
主な特徴	プレートを冷却及び加熱し、プレートの温度を制御する方式	空気およびチャンバー壁面を冷却及び加熱し、雰囲気温度を制御する方式
長所	・プレートの温度変化なので、急速な温度変化が可能 例：3℃/sec また、サンプルがプレートに設置しているのでサンプルとプレート温度差が小さい。 ・温度分布が比較的少ない ・薄いサンプルに向いている。サンプルからガラス間の距離などが、より短く製作可能 例 3mm以下など ・構成部品が少なく、装置価格が安価 ・サンプル以外に熱が伝わりにくいので、電気試験用途に向いている ・チャンバーを固定することにより、振動はほとんどなし	・空気の温度変化なので、急速な温度変化に時間がかかる。 Rt→100℃まで 3min程度、Rt→-20℃まで 8min程度 但し、一般的な恒温槽との比較では、きわめて高速 ・サンプル形状に依存しない。治具等と併せて、温度をかけることができる。 ・ガラス開口面が前面にあり、観察、光デバイス、光学的な用途に向いている。 ・チャンバーを固定することにより、振動はほとんどなし
短所	・サンプル形状が平でないと温度が伝わらない 例 高さが5mm以上、接地面が平らでない ・プレートサイズは □40、□60mmその他、80×50mmが最大サイズ	・PGシリーズと比較し装置価格が高価
向いているサンプル	 平な形状で厚み5mm以下 (金属以外であれば3mm以下)	形状問わず